



2014.10.8 (水) 10:00~12:00

新堀ライブ館 地下ホール

参加者：15名(13団体) + 乳幼児2名

～交流会議事録～

■前半：団体発表 10:00～

※前半は、連絡会会員の2団体に活動発表をお願いしました。発表順に掲載。

※発表団体からいただいた原稿をそのまま掲載しています。

※発表は当日配布の資料にもとづき補足をしながら行いましたので、資料をご覧ください。

【NPO 法人はばたき／東さん】

NPO法人 はばたきは、お母さんと一緒に運営している2・3才児の小さな手作りの幼稚園ひよこ会と、市の委託を受けて藤が岡つどいの広場を運営しています。

ひよこ会は1967年に藤が岡周辺のお母さんたちが、自主的に創り出し育てた3才児の集団保育の場です。母親と保育者で知恵を出し合い、発展してきました。もうすぐ50周年を迎えます。

2002年に独自の保育室を確保することと、地域の子育て支援を行うことを目的に法人格(NPO法人はばたき)を取得、2010年4月に市の委託を受け、藤が岡つどいの広場をオープン。ひよこ会の活動を続けると共に地域の子育て支援の場ともなっています。

ひよこ会

現在、3才児22名、2才児12名の2クラスです。

この時期の子どもは大人に依存しながらも、自分の生活をつくっていく時期で、仲間を求めようになります。又、いろいろなことに興味や好奇心が出てきて、「やってみよう」という意欲も高まってきます。しかしまだまだ自己中心的で自己主張も強く時期です。

親は子どもの失敗を恐れ、早く良い子にしないで、人に迷惑をかけない子に育てたいと”支持・命令・禁止”で止めたり、叱ってばかりになりがちです。でも、この一見困ったように見える行動は子どもが本来持っている、伸びようとする力なのです。

ひよこ会ではこの本来持っている子どもの力を切ってしまうように、心を解放してくれる外あそび中心の保育を行っています。危なくない限り、思いっきり外で、体を動かして遊び、友達ともけんかもしたり、物の取り合いも経験しながら、相手の気持ちが分かり、「今日は楽しかったなあ」「ぼくだって、わたしだって出来るんだ!」「友達っていいなあ」と思えるような一人一人の思いを大切にあそびこむ保育を行っています。

一学期はお天気良ければ、殆ど毎日、砂場であそびます。あえて、おもちゃは使わないで、手をしっかり使い、自分の発想、イメージで遊びこみます。ぬれた砂は、こわして作って、だんご・ケーキ・山・川など何にでも変化します。素手や素足で全身を使って遊び、汚れることに抵抗のなくなった子ども達の遊びはどんどん広がっていきます。二学期以降は、リュックを背負っての遠出が始まり、季節を感じながら、虫・草花など自然にかかわりながら歩きます。森のたんけんや木登りにも挑戦していきます。室内あそびも、おもちゃ類は使わないで、自分がかかわることによって、変化していく素材、ダンボール・新聞を楽しみます。大小さまざまなダンボールは家や電車、新聞はビリビリにして入れてお風呂に、さまざまにみだてられます。新聞はビリビリにして、かけあったり、丸めてパンやご馳走になって、簡単なごっこあそびへと発展していきます。

つどいの広場

地域的に子育て世代がふえて来ていることと、保育室のすぐ前が広場になっていて、砂遊びなど外遊びができることもあり、利用される人数は多いです。プラス、アドバイザーもひよこ会の保育者と卒会したOBのお母さんたちで、子育て中のママたちの気持ちも理解できるし、子どもの発達や遊びも分かっている、

安心できる場所もあるのかな、とも思います。時には部屋が満室状態の時も。もう少し、広い部屋と、もっと歩いて行ける距離にあるつどいの広場が増えると良いですね。

NPOはばたきがこれからも地域に根差し、子育て支援の核となり、“みんなで子育て”の輪がひろがっていくよう、頑張っていきたいと思います。

質問

Q NPO法人化したきっかけは？

A 団地建て替えに伴い、独自で保育室を確保しなければならなくなった事と、より地域の中で、子育て支援を発展させるために取得。

Q ひよこ会を卒会した子どもたちはどこへ進んでいきますか。

A ほとんどが、すぐ近くに、同じ様な主旨で運営している、どんぐり園に上がる。3才児のひよこ会の保育を4・5才児にも繋げたくてひよこ会の職員とお母さんたちで創った姉妹園です。一部、幼稚園に行かれる子もいます。

【NPO法人まつぼっくり／深見さん】

まつぼっくりは、湘南に暮らす障害児者とその家族を応援します。まつぼっくりのスタッフは「ともに学び、ともに成長、利用者の自立を第一に」と考え、がんばっている皆様のお手伝いをいたします。

「まつぼっくり」は障害を持つ子どもと親の会としてたちあがりしました。障害はあるけれど、子どもたちに色々な経験をさせたい、楽しい生活を送ってもらいたいという親の思いから「まつぼっくり」という団体がスタートしました。2005年8月にNPO法人格を取得しました。障害があっても問題を抱えていても個人のニーズにこたえ地域生活を送れるようにきめ細かい福祉サービスを提供することを目指しています。行っている事業は大きく分けて下記3つです。

1、訪問介護事業

・障害児者ヘルパー事業所 ジュニアサポートふわふわ

…障害児者を対象としたヘルパーサービスです。「身体介護」「家事援助」「重度訪問介護」「通院介助」「移動支援」を行っています。

・高齢者ヘルパー事業所 ピュアライフふわふわ

…高齢者を対象としたヘルパーサービスです。入浴・排泄・食事などの介護、調理・洗濯・掃除などの家事等を行っています。

・福祉有償運送事業 ふわふわ移動サービス

…電車・バス等で移動が困難な方を対象とした有償移送サービスです。

※原則として、いずれかのヘルパーサービスを利用していただいた方を対象としています。

2、余暇支援事業 サポートまつぼっくり

サポートまつぼっくりでは、余暇支援として障害を持った方とご家族、ボランティアさんで楽しい時間を過ごしていただけるように活動しております。毎月企画する楽しい行事や、季節ごとの様々なイベント(バーベキュー、プール、海、スキー等)を行なっております。

3、生活環境支援事業

障害を持った方やその家族(親、きょうだい等)が日々生活する上で感じる「困難」や「生きにくさ」の解消の、【心のバリアフリー】をいろいろな角度から支援することを目的として活動しています。「きょうだい支援」「家族支援」「住環境相談」「福祉用具等の販売」を行っています。

【ヘルパーサービスの説明】

『障がいのある方のヘルパー事業所ガイド』を参照しながら説明します。

・障がいのある方のヘルパーって、どういう仕事？

…お部屋の掃除や洗濯調理などを行う「家事援助」、入浴や食事、トイレのお手伝いをする「身体介護」、余暇の外出や、通園・通学・通所の移動を支援する「移動支援」等があります。

・どんな方に支援するの？

…身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい、難病などがある方へ支援します。

・どんな資格があるの？

…介護職員初任者研修修了者、ガイドヘルパー養成研修修了者、行動援護従事者、同行援護従事者、介護福祉士などがあります。

P.5以降は藤沢市で活動するヘルパー事業所の紹介が掲載されています。

質問

Q ①パートやボランティアスタッフ50人をどうやってまとめて配置させているのか、イベント企画もまかせているのか。スタッフの学習会や研修会は行っているのか？

A それぞれ担当ごとに配置を分け、数名の責任者がまとめている。イベント企画はイベントごとにメンバーを募り運営している。

Q ②前回の交流会で話題になった何か事故があったときの「保険・補償」は、団体として、また、イベントを開催するときに、どんなものをかけているのか。実際、保険や補償を使ったことがあるか。

A ヘルパー事業所としては事業用の保険をかけており、イベントは社協の保険をその都度かけている。使うことはほとんどないが、あくまで保険としてかけている。

Q ③(前の質問に続いて、)そのような保険代はイベント参加者からどのように徴収しているのか。

A 参加費に含んでいる場合が多いです。

Q ④「得意なことを仕事に」とパンフレットにありますが、ヘルパーは資格が必要なんですよ。また、1日1～2時間という働き方はできるのでしょうか？

A もちろん可能です。資格がなくてもできる仕事もあるので、パンフレットを元に事業所を探し、ぜひヘルパーとして働いてみてください！

*****団体発表は以上です。

■後半:グループ交流 11:00～

テーマ

～子育て当事者が必要としている情報って…？～

「子育て当事者は、今どんな情報を必要としていて、どんな方法で情報を得ているでしょうか」

これまで、子育て支援者目線のテーマが中心でしたが、視点を変えてみました。
みなさんが現場で、当事者の方から見聞きしたことなどを交えて考え合いました。
(2人以上で来られている団体の方は、別々のグループに分かれていただきました)

◆Aグループ (※以下、敬称略)

参加者：青空自主保育でんでんむし青森、NPO法人はばたき 東、こぼと文庫 陰山、からふる
♡ふれんど 飯田、べびーず★かふえ 林

★子育て当事者は何を求めていると思うか？

・どろんこ遊び、親がいやがるとか。

- ・本の読み聞かせの意義がわかって、知育遊びの方が大事とか？
- ・学校でもパソコン教育に熱心。これからの社会ではパソコンなども必要だと思うが、パソコンなどの電子メディアに接するのが低年齢化している。
- ・最近のお母さん。周りを気にする。情報過多。母同士の関係を気にして気疲れ。友達は欲しいが、自分の時間も欲しい。しつけへのプレッシャー。
- ・つどいの広場に来られるような方は、そこで悩みを相談できたりするが、つどいの広場にも出て来られないような方にどのように情報を伝えていくか。
- ・自分たちの活動の場に来るお母さんたちにどんな情報が求められているか、各団体で聞き取りをすることも大事だと思う。
- ・いろいろな子育て支援活動があり、読み聞かせや青空自主保育など、お母さん方がどこを選択して行くかで、何を大事にしているか、どんな情報を求めているかは、ある程度方向性があるのでは。
- ・情報源として、市の広報やつどいの広場など公の機関は大事。
- ・郵便局の掲示板は、以前は無料だったので使えたが、今は有料。掲示板が有効活用されているかわからない。
- ・口コミの力は、やはり大きい。

◆Bグループ

参加者：湘南どんぐりひろば 榊原、NPO 法人湘南障害児者を守る会 まつぼっくり 深見、主任児童委員連絡会 松本、hinatabocco 小林、Gateway International Center 朝倉

★子育て中の人と話していて感じたこと

- ・頑張っているけど、人が集まらない、という話を聞いたが、湘南台の子育てメッセで対面で80人くらいに配ったら、その後「ひろば」に15組ほど集まった。あと、ブログをやっているのので、そこで告知をしている。ツイッターで発信している。藤沢市の子育てネットふじさわを活用している。新しくなって、審査はあるが、自由に告知できるようになった。
(湘南どんぐりひろば 榊原)

- ・利用者さんが固定されていて、イベントに参加している。
(NPO 法人湘南障害児者を守る会 まつぼっくり 深見)

・片瀬でにこにこ広場として活動している。ボランティアセンターを借りている関係で、広報誌ふじさわに一面に出ている。民生委員なので、場所や会費など優遇されている。個人情報や写真などもいただいている。欲しい情報 渡したい情報 リトミックなど若いお母さんたちがやりたいことを提供している。お母さんがNPOを立てるような活動が理想だけれど、なかなかできない。お母さんはここにきてほっとしたい。2～3人積極的な人がいれば、やりたいことが出てきてお母さん企画が実現できるだろう。(主任児童委員連絡会 松本)

これに対しての提案

- ・乳幼児家庭学級卒のお母さんにアンケートをとってみてはどうか。保育付き座談会(お茶菓子付き)はどうか。そこからお母さんのやりたいことを見つけ出すといい。

・横浜市に住んでいたが、藤沢市は子育て支援にサービスが悪いと感じた。
横浜市や鎌倉市は、子育て支援団体に優先されるサービスがある。

・公立の小中学校に入れたがらない親が多い。もしかして公立が荒れているせい？片瀬は公立小中学校に入れる親が多い。

・活動実績がないと、講座やイベント開催に藤沢市の後援をもらいにくいのではないかと。

これに対しての提案

子育て応援メッセに出展する、冊子に活動を告知できる（無料）。こども青少年育成課にチラシを渡し、つどいの広場、支援センターに置いてもらうことができる。

この他に現役お母さんとしての意見

・有償ボランティアがいい。交通費もらえてお仕事できる。お茶飲み放題など特典をつける。子連れで資格取りたい人に向けて、託児付き講座開く。（視点を変えることで世界が広がるのでいい）（hinatabocco 小林）

◆Cグループ

参加者：青空自主保育でんでんむし 青森、エナジーハンド CLUB 宝官、
主任児童委員連絡会 小林、善行あいの会 土屋、子育て支援グループゆめこびと 有田

★子育て当事者が必要としている情報は？

・小学校の情報があまりない。来春、転居予定。学校のHPはあるが、地域に行って交流しないと実際の声は聞けない。小学校に入ってPTAで活動して情報を集めようと思う。
（青空自主保育でんでんむし 青森）

・今のお母さんは自己表現したいのだと思う。誰かに必要とされたい。人と深いコミュニケーションをとりたい。自分らしさを取り戻したい。仕事をしたいけれど、フルタイムまでできない。働きたいけれど、働けない。そういう思いを持っている。自立や生きがい、社会とつながる方法を探しにきている。支援者、サポートする側を増やしたい。
（エナジーハンド CLUB 宝官）

・子育て支援室でリトミックをしている。お母さんたちの質が変わったと思う。お母さんと子どもをつながない。スマホを見ている。子どもも、他のお母さんと手をつなげる子が減った。悲しい事件が多い中、人と交わるように、若いお母さんを引っ張り出してあげたい。子どものこともお母さん自身のことも好きになってもらいたい。
（主任児童委員連絡会 小林）

・子育てや幼稚園の情報など、ナマの声を聞きたいのだと思う。孤独でうちにこもっている人がいる。公園で気の合うママ友に会えないという人もいる。そういう人は情報を得にくい。つどいのひろばに来て、友だちづくりをしてもらいたい。
（善行あいの会 土屋）

・お母さんたちの孤立感や不安感はより深くなっている。心を開いて子育ての喜びや悩みを分かち合える、サポートしあえる仲間が必要。体験を持ち寄り、グループで話し合うことで解決方法を見出していく親支援プログラム（NP、BP）の提供をしている。参加した親たちの多くが終了後もつながるのが大きな特徴。（子育て支援グループゆめこびと 有田）

【交流会感想】

回を重ねるごとに、グループ交流時のメモやグループ発表など、参加者グループ内で積極的に分担できるようになり、感謝しています。

子育て、子育て支援を中心に活動されている方ばかりなので、どんなテーマの切り口でも毎回グループ内での話が盛り上がっていますし、私も新しい発見があって楽しみです。

(連絡会役員・ベビーず★かふえ 林)

・はばたきさんとまつぼっくりさんの発表、大変、興味深く伺いました。子供達にとってよりよい環境を作るために地道に活動を続けている事、すばらしいと思います。ありがとうございます。

・発表はどちらも、長く想いを持って続けているのはすごいことです。また障がい児や子供の何か困った行動言動等があった時に、まつぼっくりさんを通して相談できる繋がりがあります。交流会は、子育て当事者は、今どんな情報を必要としていて、どんな方法で情報を得ているのか？という内容から話が始まり、大半の方がPCインターネットから得ている様だと意見が出ている中、家で画面を見て色々な情報や相談ができる事は良い事だと思うが、情報が多すぎる事や画面からは感情が伝わりにくい欠点があると、改めて思いました。

・口コミにしても子育て中のお母さんに直接、対面でチラシを渡すという基本があつての事なのかな、と感じました。私自身はやはり信頼している友人からの情報は重視しますし、同時に広くネットワークからの情報で今まで知らなかったイベントに参加してみようと思ひ、参加したことで新しい出会いがあつたので、どちらも大切に思ひます。そして、ひろば、イベントに行く事の目的は子育てするパワーをもらったり、子どもとのキズナを再確認できる場になればいいな、と思ひました。

・いろいろ皆様のお話を聞いて、いろんな活動、いろんな思いで子育てや社会への関わりをしていて、自分の世界はせまく、もっと自分の世界を広げないといけないな、と反省まじりの思いがでました。(青空自主保育 でんでんむし 青森)

・団体発表と各グループの話し合いで各団体の情報が知れて良かったです。片瀬での子育て広場のチラシを置いたりお母さんとの座談会を開いてみようと思ひました。若いお母様方との情報交換が楽しかったです。(主任児童委員 松本)

・情報交換のテーマ選びが良くて、いつも感心しています。今回のテーマ、利用者目線で考えていくことは大切だと感じていますが、なかなか利用者にお聞きするに至っていませんでした。機会を作ってなるべく伺っていきこうと思ひました。“はじめの一步”を踏み出してもらうための情報が、必要としているすべての人に届くことを願っています。(こぼと文庫 蔭山)

・パワフルな子育て世代のお母さんと交流でき、新しい乳幼児をもつ世代の方たちがどんな環境を望んでいるのかなんとなくわかりました。共働き・女性の社会進出とともに、子育て観が変わってきていることも実感しましたし、横浜市と藤沢市の子育てに求めるものもちがってきているのだな、とわかりました。NPOはばたきさんの活動内容は、子育て広場を運営している側にとっても参考になりました。まつぼっくりさんの障害を持つ当事者だけでなくその家族へのサポート活動は、すばらしいなあ、と思ひます。また、障害のある方へのサポートとなるいろいろな資格の紹介と資格取得のご案内をありがとうございました。誰でも取得可能ですし、子育て中やボランティアの女性に、実感が得られ、世界が広がるのではないのでしょうか。(湘南どんぐりひろば 榊原)

【出欠票のご意見】

今回は当協議会の理事会と重なり残念ながら欠席です。

今回のテーマの「子育て当事者は、今どんな情報を必要としていて、どんな方法で情報を得ているのか」は、とても関心のあるテーマです。市子連も従来の紙ベースのお知らせに加えて、電子メールによる方法も検討するなど、試行錯誤しています。

(藤沢市子ども会連絡協議会)

----- 最後までお読みくださってありがとうございました。